

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970200139		
法人名	株式会社 徳増工業		
事業所名	グループホーム なかよし		
所在地	高知県室戸市元甲206-1		
自己評価作成日	平成29年11月3日	評価結果 市町村受理日	平成30年2月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、毎日の朝礼時に理念を唱和するとともに、その日の個人目標を立て、利用者への挨拶から始まり、馴染みの関係を大切にして、和やかな雰囲気づくりに配慮しています。利用者は、土地柄もあって個性豊かな人ばかりで、言葉は荒いが、気持ちはまっすぐな人が多い。自由に楽しく過ごせるような個別支援に取り組むとともに、ドライブや地域のイベントへの参加等の外出の機会を設け、楽しみが感じられる暮らしに向けて支援しています。

地域の小学校や保育園の運動会や発表会に参加、見学させてもらったり、事業所での敬老会には保育園児に劇や踊りを披露してもらい、ハロウィンの衣装をした小学生の訪問があるほか、夏祭りやクリスマス会等の事業所行事には、近隣住民にも来所してもらえるよう声掛けするなど、地域交流が深まるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detai_2017_022_kihontrue&amp;JiyosyoCd=3970200139-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detai_2017_022_kihontrue&amp;JiyosyoCd=3970200139-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成29年12月8日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気の中で、少人数であるからこその特徴を活かして、利用者一人ひとりが好きなこと、得意なことができる個別支援に取り組み、「自然や地域の人たちとふれあいながら、安心してその人らしさが発揮できる支援を行う」という理念に沿ったケアが提供されている。音楽コンサートに行きたい利用者がいれば職員がチケットを確保したり、読書好きな利用者とは、一緒に図書館に行くこともある。

地域住民との交流も大切にし、保育園、小学校の行事に招待されたり、来てもらったり、近隣住民を事業所のアヤマ祭、夏祭り、敬老会などに招待しているほか、旬の野菜や米などの差し入れもある。防災訓練には地区の自主防災組織の人たちの協力もあり、良好な関係が築かれている。

課題となっている看取りについても前向きに取組み、勉強会等での研鑽を重ねて体制を整えつつある。管理者と職員の関係も良く、意見を出しやすい雰囲気づくりに努め、出された気づきや意見に対しては、職員全体で話し合い、ケアに反映させている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:A棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼では、当日の勤務者全員で理念を唱和している。毎朝、ユニット毎に職員はその日の目標を立て、一日の終わりに「何ができたのか、できなかったのか」を振り返り、翌日につなげるようにしている。	理念は、毎朝朝礼で唱和している。自然や地域の人たちとふれあいながら、個々の得意なことや好きなことなどを活かし、その人らしさが発揮できるよう、自立支援に向けたケアを提供し、理念を実践している。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の神祭やイベント、保育園や小学校の運動会や発表会への参加、見学のほか、事業所行事では保育園児に劇や踊り等で参加してもらっている。町内の一斉清掃への参加等、地域行事には積極的に参加している。	自治会に加入し、地域の一斉清掃や、防災訓練等に参加している。敬老会、あやめ会、夏祭りなどの事業所行事には近隣住民を招待している。近隣からの旬の野菜や、果物などの差し入れもあり、日常的に地域と交流している。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所行事には近隣住民に参加案内を行い、参加、見学してもらう機会を設けている。地域住民代表の運営推進会議や、避難訓練への参加で、地域住民には事業所の現状を理解してもらっている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所より利用者状況や事故状況等の活動状況を報告し、参加者とは意見交換をして、出た意見をもとに、改善に取り組んでいる。より多くの家族が出席できるよう、事前に日程調整を行っている。	会議には家族代表、行政職員、地域包括支援センター職員、地域住民代表(地区長、民生委員)の参加がある。事業報告のほか、研修会も行っている。参加者からも質問を受け、意見交換が行われている。議事録は、参加のない家族に送付している。	
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、代表者、担当職員は、運営やサービス内容等について必要に応じて市に相談したり、また、地域包括支援センター主催のセミナーやケア会議等に参加することで、市との協力関係が築けるよう取り組んでいる。	運営推進会での情報交換や、困難事例、制度上の不明点などの市への相談ができています。地域包括支援センター主催の研修会にも参加し、定期的に利用者の入退所状況を報告して、協力関係を築いている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないよう、職員に周知徹底している。職員会議や勉強会、毎日の朝礼の中で、職員は、日々のケアを振り返ることで、どのような取り組みやケアを行っていくべきかを話し合っている。玄関の施錠や、言葉での拘束には特に気をつけている。	身体拘束をしないケアについて事業所内で研修したり、職員会で話し合ったりして、職員の理解を浸透させている。利用者の状態を把握して気分転換してもらったり、見守り等で早期の対応を心掛けている。言葉の拘束についても留意し、気になることが見られた場合には、その都度お互いに注意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会があれば受講のためのシフト調整を行い、研修内容は職員会議等の中で報告させ、職員全員で共有できるよう努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度に関する研修等には積極的に参加し、職員会議では、資料を使って勉強会を開いている。日常生活自立支援事業や成年後見人制度について、必要な場合には制度が活用できるよう、関係者と密に連絡を取る等の支援を行っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に重要事項や利用料等について説明を行い、改定の場合はその根拠理由について、丁寧に説明し、承諾を得た上で、契約を締結している。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を常時設置している。家族からは、面会、連絡時や家族会の際に、意見や要望、相談が聞けるよう取り組んでいる。出された要望や意見は、職員会議や運営推進会議で報告、協議して、議事録を家族に送付している。	年3回家族会を開催し、家族だけの話し合いの場も設けている。意見箱も設置し、出された意見や要望は個別に対応したり、職員会等で話し合っている。図書館や買い物に行きたい等との利用者の個別の要望にも、可能な限り対応できるよう日程調整をしている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見が聞ける機会を持てるよう、取り組んでいる。また、意見が出しやすい雰囲気作りや、日頃から意見が言いやすい環境作りにも取り組んでいる。	職員会や朝礼などで、職員の意見や気づきなどを出し合うようにしている。意見については、全員で検討し、反映できるように取り組んでいる。職員の勤務についても希望を聞いて勤務表を作成し、交代に対しても調整をしながら、働きやすい職場を心掛けている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況については、代表者に月次報告を行っている。休日の希望や勤務時間については、個々に希望を聞き、シフトの調整を行っている。定期的に給与の見直しを行うとともに、毎月の勤務実績に伴って手当の支給をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的な学習を推進し、正規、非正規の区別なく全職員がチームの一員として研修に参加する機会が持てるよう、個々の段階に応じた研修計画を作成している。勉強会の開催等、日々の業務の中でも学ぶことができるよう取り組んでいる。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホームネットワーク会議への参加や、介護支援専門員の交流会等に参加し、同業者と交流する機会を持ったり、他の事業所を見学できる機会を設けることで、サービスの質の向上につなげている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とは事前の面接を調整して要望等を聞き、馴染みの関係に近づけるよう努めている。また、入所後に不安感をつのらせることがないよう、傾聴、受容、共感を心掛け、利用者の質問や要望に応じるよう取り組んでいる。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に事業所の見学をしてもらい、事業所での生活の実態を観てもらったうえで、利用の決定をもらっている。面談時には、利用者のこれまでの経緯や状態について、家族や本人に詳しく聞くようにしている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時や入所申込時に、本人や家族等の思いや状況等を確認し、必要があれば他のサービスの利用についてアドバイスしたり、他の事業所を紹介して、調整を行っている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	注意深く傾聴することで、本人の話す言葉の意味を考え、同じ目線で、共に生活している共同者として接することを心掛けている。また、職員は、利用者を年長者として尊厳する気持ちを常に持つよう、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	利用者一人ひとりの様子を知ってもらえるよう、毎月のお便りでお知らせしている。お便りの中で行事日程を案内し、行事への参加を呼びかけ、本人と家族との絆や、事業所や職員と家族との協力関係が保てるよう、努めている。		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	自宅やその周辺へ立ち寄ったり、家族に限らず、友人や知人の方の面会や電話を通して会話の機会を作り、馴染みの関係維持に努めている。	近所への買い物や、地域の行事に参加することで、利用者が知り合いに会う機会を作っている。知人や地域の人が立ち寄ってくれたり、自宅近くへドライブに行ったりして、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	食事の時間に利用者同士が声を掛け合ったり、居室を行き来したりしている。日々の生活の中で、洗濯や配膳等、利用者の得意なこと、できることに役割が持てるよう支援している。利用者同士のコミュニケーションが図れるような支援にも努めている。		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	入院したり他施設へ入所した場合には、面会等を通じて家族や本人と話す機会を持ち、退所後もその後の経過を聞き、相談にも応じて、調整や連携が必要な場合には対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	家族からの情報や、利用者一人ひとりの様子や会話の中での気づきを記録し、職員間で申し送り、職員会議でも報告をして、情報共有している。食事や嗜好、休息、外出等、柔軟な対応と支援を行い、「その人らしさが発揮できる」よう取り組んでいる。	入所時の家族や関係者からの情報と、利用者の日々の行動や表情、言葉などから個々の思いを把握し、生活の中での変化や気づきを発見して、個々の利用者が何を望んでいるかを話し合いながら確認し、情報共有している。	
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	入所時に本人、家族から生活歴や生活環境、これまでの経過等について聞き、関係機関等とも連携して必要な情報を得ることで、それまでの経過や個々の状態、状況の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、目配り、気配り、傾聴、受容、共感することを心掛けている。利用者個々の個人記録により、一日の様子を振り返るように努めている。また、朝礼で前日の様子を報告することで、職員が情報を共有し、状況把握をしている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや毎日の生活の中で得た情報、家族からの要望や意見をもとに職員会議を行い、介護計画を作成して、家族に説明している。計画は3ヶ月毎及び入退院等により利用者の状態に変化があった場合には、職員の意見を聞き、その都度見直している。	日々の変化や気づきを把握し、面会時や電話で家族の意見、要望を確認して職員でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。3ヶ月毎の評価、見直しを行っている。家族の要望や状態に変化が生じた場合はその都度検討会を開催し、見直しを行っている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や業務日誌、申送ノートの記録を職員全員が確認し、職員会議の中で出された意見や情報は会議録を回覧することで、再確認している。計画作成担当者や担当職員を中心に、職員会議やモニタリング内容をもとに、必要な介護計画の見直しを行い、記録内容を活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの生活習慣やニーズに合わせて、嗜好や散歩、買い物、外食、病院受診等、個別支援ができるよう取り組んでいる。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設事業所と合同でイベントを行ったり、地域行事に参加することで、利用者が楽しみを感じられるような支援を行っている。また、緊急時には近隣住民の協力が得られるよう、地域の避難訓練では地域住民と一緒に避難し、関係づくりに努めている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、本人、家族の希望する医療機関に受診できるよう支援している。利用者の多くは協力医療機関をかかりつけ医としており、隔週で往診を受けている。家族が付き添えない場合には、職員が対応している。受診結果は、家族に連絡し、受診報告書に記載している。	本人、家族が希望する医療機関を受診できるよう、支援している。ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医として、月2回の訪問診療を受けている。専門医への受診は、職員が対応している。受診結果は家族に報告し、受診報告書に記録して、職員全体で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、看護職員と常に連携して、利用者の健康維持に努めている。利用者の状態に変化がある場合は看護職員に相談し、指示を仰ぐことで、受診や処置等がうけられるように支援している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時や入院中は、医療機関や家族と密に連絡を取ることで状態の把握に努め、退院後の支援へつなげている。特に協力医療機関とは、往診時等に相談するなど、日頃から情報交換できるような体制を整えている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族と話し合い、事業所でできることを説明している。重度化した場合の方針や方向性については、家族や本人の希望に可能な限り沿えるよう、医療機関、家族、事業所間で話し合う機会を持つよう取り組んでいる。	早い段階から家族から希望を聞き、終末ケアについての対応を説明している。希望に沿えるよう代表者、管理者は前向きに検討している。終末ケアに向け、看護師、職員間で研修、勉強会をしているほか、医療機関、家族、事業所間で話し合う機会が持てるよう取り組んでいる。	職員研修や協力医療機関との支援体制を強化し、家族との話し合いを行いながら対応方針を共有して、終末期に向けて最大限のケアが提供できることを期待したい。
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員が常時確認できる場所に備え付けている。救命講習の中で、心肺蘇生法やAEDの使用方法を習得し、再確認のため勉強会を行って、実践に備えた訓練を行っている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会を得て、年2回の火災避難訓練、消火訓練を行っている。風水害等の災害想定での避難訓練は市担当課立会により、年1回行っている。津波避難タワーまでは、日頃の散歩コースにしている。地域の避難訓練に参加したり、事業所避難訓練には、地域住民に協力してもらっている。	消防署立会いのもと、年2回の火災訓練(夜間、日中想定)を行い地区長、民生委員の協力がある。地震、津波訓練では、隣接の小規模多機能事業所と協力して3階まで避難する訓練や、避難タワーまでを散歩コースにしての自主訓練も行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレ入室時は、ノックと利用者への声掛けで承諾を得ている。また、人格を尊重し、年長者に対する敬意を表すため、言葉遣いには十分に注意し、丁寧語を使用するよう取り組んでいる。個人情報保護のため、職員は、職員採用時に誓約書を書いている。	人格を尊重した言葉遣いを心掛けている。トイレ誘導時にはさりげない声掛けをし、排泄中は外で待つなど、羞恥心を傷つけないようにしている。居室に入室の際にはノックと声掛けをして、承諾を得てから入室するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きなこと、興味があること、得意なこと等を重視し、利用者一人ひとりの希望を聞くことができるような言葉かけに配慮して、個別レクリエーションや個別支援に取り組んでいる。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活習慣を尊重し、一人ひとりのペースで、その日、その時の希望に十分に添えるよう対応している。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は髭剃りをしたり、女性は外出前に化粧をし、身だしなみを整える支援をしている。衣料品購入の希望があれば、好みのものを自分で選び、買い物できるよう支援している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表はあるが、旬の野菜や魚の差し入れ等があれば献立を変更する等、利用者の希望や状態を把握のうえ、刻み食やミキサー食等の個別の工夫をしている。山菜の皮むきは全員で行ったり、配膳や下膳、食器洗い等は、職員と利用者が共同で行っている。	献立表は作っているが、野菜や魚等の差し入れがあったときなどは、調理方法等を利用者と相談して変更している。野菜洗いや皮はぎ、配膳、下膳、食器洗い等できることは手伝ってもらい、職員も利用者と同じものを一緒に食べている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医からの指示、制限のある利用者以外は、一人ひとりの状態やその日の天候や環境等により、水分量の調整や栄養摂取に取り組んでいる。水分摂取はその都度個人記録に記載し、体重測定は月1回行っている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	下膳後、声掛けと誘導をし、利用者一人ひとりの習慣と力に応じた口腔ケア支援を行っている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンに応じて、ポータブルトイレの使用、布パンツ、紙パンツ、尿取りパッド、紙オムツ等で支援し、日中と夜間帯、状態の変化等によっても、その人、そのときに適した形で支援している。日中、夜間共に、可能な限り、トイレで排泄できるよう支援している。	個々の状態を把握し、各利用者に応じた対応ができています。トイレ誘導ができるようになり紙パンツ、パットもいらなくなった事例や、夜間ポータブルトイレを使用していたのがトイレに行くようになった事例などがあり、排泄パターンを把握することで、失敗やおむつ使用を少なくする支援を行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維がより多く摂取できるよう、食材を工夫している。近所への散歩や、下階ホールでの屈伸運動、階段昇降練習などの個別支援をしている。また、主治医と相談したうえで、緩下剤投与の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望を聞き、意思を確認後、入浴してもらっている。入浴を拒む利用者には、意欲を引き出せるような言葉掛けや説明をし、対応す職員を変えたり、入浴時間をずらす等の工夫をしている。	週に5日入る利用者、3日入る利用者等、希望に合わせて入浴支援をしている。入浴を拒否する利用者には、状態を見ながら声掛けや対応職員を変えたりしながら、週2日は入浴するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や休息は、利用者一人ひとりの状態を把握しながら、ベッドが苦手な場合はベッドを除去したり、ベッドの位置を移動させたり、居室の温度調節等に配慮して、安眠できる環境づくりを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルの手順に従い服薬支援を行っている。看護職員を中心に、服薬管理や薬の効用、副作用に関する勉強会を行っている。利用者の状態を観察し、変化があればその都度主治医の指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが趣味、趣向を楽しむことができ、得意なことや生活習慣を活かした家事やレクリエーションをすることで、楽しさや満足感を味わうことができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所周辺を散歩したり、量販店への買い物や、自宅や馴染みのある場所へのドライブ、地域のイベントへの外出、お花見等、個別の外出支援をしている。	近くの神社や避難タワーまで散歩したり、地域の行事、自宅周辺のドライブ、音楽の好きな利用者にはコンサート、読書好きの利用者は図書館へと、希望に応じた個別の支援ができています。年間行事として花見や、海の駅等での外食の計画を立て、全員で行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的に、地元のパン屋の移動販売を利用し、それぞれ好みのパンを購入している。必要な場合には小遣いを利用者自身が管理し、週刊誌や菓子等の買い物ができるように支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの要望があれば家族へ電話ができるよう支援し、家族からの電話は常時取り次ぐようにしている。家族から母の日のプレゼントが届いた際には、利用者自身でお礼の電話をしてもらっている。家族等への手紙や、年賀状が送れるよう支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がちぎり絵や折り紙などでリビングの壁飾りやカレンダーを作り、季節毎に貼り替えることで、季節感を感じられるよう工夫している。利用者一人ひとりに合った温度、湿度が保てるよう努めている。	広いリビングの壁には、利用者と共に作った秋の名残りの壁面、制作中のクリスマス用の壁面が貼られ、季節が感じられる。台所では職員が昼食の準備をしていて、その匂いや雰囲気が生生活感を感じさせている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空スペースにソファや畳の間を設置し、自由に過ごせるようにしている。食事の時間やティータイムを楽しく過ごしてもらえるよう、利用者個々の居場所に配慮する取り組みを行っている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前から使用している使い慣れた家具や寝具、テレビ等を居室で使用している。また、居室には、家族との写真や、本人が作った作品等を飾り、穏やかに過ごせるよう工夫がされている。	それぞれの居室に写真、カレンダー、自作の作品などが飾られ、タンスや3段ボックスなど、使い慣れた物や使いやすいものを置いている。テレビを置いてある居室では、雑多に置かれたDVDディスクが生生活感を感じさせている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の出入口の戸口の色を違えたり、目印をつけることで、居室を間違わないように工夫している。排泄後の手洗いや、食後の口腔ケアは、習慣が身に付くよう、声掛け支援をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名：B棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼では、当日の勤務者全員で理念を唱和している。毎朝、ユニット毎に職員はその日の目標を立て、一日の終わりに「何ができたのか、できなかったのか」を振り返り、翌日につなげるようにしている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の神祭やイベント、保育園や小学校の運動会や発表会への参加、見学のほか、事業所行事では保育園児に劇や踊り等で参加してもらっている。町内の一斉清掃への参加等、地域行事には積極的に参加している。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所行事には近隣住民に参加案内を行い、参加、見学してもらう機会を設けている。地域住民代表の運営推進会議や、避難訓練への参加で、地域住民には事業所の現状を理解してもらっている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所より利用者状況や事故状況等の活動状況を報告し、参加者とは意見交換をして、出た意見をもとに、改善に取り組んでいる。より多くの家族が出席できるよう、事前に日程調整を行っている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者、代表者、担当職員は、運営やサービス内容等について必要に応じて市に相談したり、また、地域包括支援センター主催のセミナーやケア会議等に参加することで、市との協力関係が築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないよう、職員に周知徹底している。職員会議や勉強会、毎日の朝礼の中で、職員は、日々のケアを振り返ることで、どのような取り組みやケアを行っていくべきかを話し合っている。玄関の施錠や、言葉での拘束には特に気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会があれば受講のためのシフト調整を行い、研修内容は職員会議等の中で報告させ、職員全員で共有できるよう努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度に関する研修等には積極的に参加し、職員会議では、資料を使って勉強会を開いている。日常生活自立支援事業や成年後見人制度について、必要な場合には制度が活用できるよう、関係者と密に連絡を取る等の支援を行っている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に重要事項や利用料等について説明を行い、改定の場合はその根拠理由について、丁寧に説明し、承諾を得た上で、契約を締結している。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を常時設置している。家族からは、面会、連絡時や家族会の際に、意見や要望、相談が聞けるよう取り組んでいる。出された要望や意見は、職員会議や運営推進会議で報告、協議して、議事録を家族に送付している。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見が聞ける機会を持てるよう、取り組んでいる。また、意見が出しやすい雰囲気作りや、日頃から意見が言いやすい環境作りにも取り組んでいる。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況については、代表者に月次報告を行っている。休日の希望や勤務時間については、個々に希望を聞き、シフトの調整を行っている。定期的に給与の見直しを行うとともに、毎月の勤務実績に伴って手当の支給をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的な学習を推進し、正規、非正規の区別なく全職員がチームの一員として研修に参加する機会が持てるよう、個々の段階に応じた研修計画を作成している。勉強会の開催等、日々の業務の中でも学ぶことができるよう取り組んでいる。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホームネットワーク会議への参加や、介護支援専門員の交流会等に参加し、同業者と交流する機会を持ったり、他の事業所を見学できる機会を設けることで、サービスの質の向上につなげている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とは事前の面接を調整して要望等を聞き、馴染みの関係に近づけるよう努めている。また、入所後に不安感をつのらせることがないよう、傾聴、受容、共感を心掛け、利用者の質問や要望に応じるよう取り組んでいる。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に事業所の見学をしてもらい、事業所での生活の実態を観てもらったうえで、利用の決定してもらっている。面談時には、利用者のこれまでの経緯や状態について、家族や本人に詳しく聞くようにしている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時や入所申込時に、本人や家族等の思いや状況等を確認し、必要があれば他のサービスの利用についてアドバイスしたり、他の事業所を紹介して、調整を行っている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	注意深く傾聴することで、本人の話す言葉の意味を考え、同じ目線で、共に生活している共同者として接することを心掛けている。また、職員は、利用者を年長者として尊厳する気持ちを常に持つよう、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者一人ひとりの様子を知ってもらえるよう、毎月のお便りでお知らせしている。お便りの中で行事日程を案内し、行事への参加を呼びかけ、本人と家族との絆や、事業所や職員と家族との協力関係が保てるよう、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅やその周辺へ立ち寄ったり、家族に限らず、友人や知人の方の面会や電話を通して会話の機会を作り、馴染みの関係維持に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間に利用者同士が声を掛け合ったり、居室を行き来したりしている。日々の生活の中で、洗濯や配膳等、利用者の得意なこと、できることに役割が持てるよう支援している。利用者同士のコミュニケーションが図れるような支援にも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院したり他施設へ入所した場合には、面会等を通じて家族や本人と話す機会を持ち、退所後もその後の経過を聞き、相談にも応じて、調整や連携が必要な場合には対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や、利用者一人ひとりの様子や会話の中での気づきを記録し、職員間で申し送り、職員会議でも報告をして、情報共有している。食事や嗜好、休息、外出等、柔軟な対応と支援を行い、「その人らしさが発揮できる」よう取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人、家族から生活歴や生活環境、これまでの経過等について聞き、関係機関等とも連携して必要な情報を得ることで、それまでの経過や個々の状態、状況の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、目配り、気配り、傾聴、受容、共感することを心掛けている。利用者個々の個人記録により、一日の様子を振り返るように努めている。また、朝礼で前日の様子を報告することで、職員が情報を共有し、状況把握をしている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングや毎日の生活の中で得た情報、家族からの要望や意見をもとに職員会議を行い、介護計画を作成して、家族に説明している。計画は3ヶ月毎及び入退院等により利用者の状態に変化があった場合には、職員の意見を聞き、その都度見直している。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や業務日誌、申送ノートの記録を職員全員が確認し、職員会議の中で出された意見や情報は会議録を回覧することで、再確認している。計画作成担当者や担当職員を中心に、職員会議やモニタリング内容をもとに、必要な介護計画の見直しを行い、記録内容を活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの生活習慣やニーズに合わせて、嗜好や散歩、買い物、外食、病院受診等、個別支援ができるよう取り組んでいる。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設事業所と合同でイベントを行ったり、地域行事に参加することで、利用者が楽しみを感じられるような支援を行っている。また、緊急時には近隣住民の協力が得られるよう、地域の避難訓練では地域住民と一緒に避難し、関係づくりに努めている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、本人、家族の希望する医療機関に受診できるよう支援している。利用者の多くは協力医療機関をかかりつけ医としており、隔週で往診を受けている。家族が付き添えない場合には、職員が対応している。受診結果は、家族に連絡し、受診報告書に記載している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、看護職員と常に連携して、利用者の健康維持に努めている。利用者の状態に変化がある場合は看護職員に相談し、指示を仰ぐことで、受診や処置等がうけられるように支援している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時や入院中は、医療機関や家族と密に連絡を取ることで状態の把握に努め、退院後の支援へつなげている。特に協力医療機関とは、往診時等に相談するなど、日頃から情報交換できるような体制を整えている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族と話し合い、事業所でできることを説明している。重度化した場合の方針や方向性については、家族や本人の希望に可能な限り沿えるよう、医療機関、家族、事業所間で話し合う機会を持つよう取り組んでいる。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員が常時確認できる場所に備え付けている。救命講習の中で、心肺蘇生法やAEDの使用方法を習得し、再確認のため勉強会を行って、実践に備えた訓練を行っている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会を得て、年2回の火災避難訓練、消火訓練を行っている。風水害等の災害想定避難訓練は市担当課立会により、年1回行っている。津波避難タワーまでは、日頃の散歩コースにしている。地域の避難訓練に参加したり、事業所避難訓練には、地域住民に協力してもらっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレ入室時は、ノックと利用者への声掛けで承諾を得ている。また、人格を尊重し、年長者に対する敬意を表すため、言葉遣いには十分に注意し、丁寧語を使用するよう取り組んでいる。個人情報保護のため、職員は、職員採用時に誓約書を書いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きなこと、興味があること、得意なこと等を重視し、利用者一人ひとりの希望を聞くことができるような言葉かけに配慮して、個別レクリエーションや個別支援に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活習慣を尊重し、一人ひとりのペースで、その日、その時の希望に十分に添えるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は髭剃りをしたり、女性は外出前に化粧をし、身だしなみを整える支援をしている。衣料品購入の希望があれば、好みのものを自分で選び、買い物できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表はあるが、旬の野菜や魚の差し入れ等があれば献立を変更する等、利用者の希望や状態を把握のうえ、刻み食やミキサー食等の個別の工夫をしている。山菜の皮むきは全員で行ったり、配膳や下膳、食器洗い等は、職員と利用者が共同で行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医からの指示、制限のある利用者以外は、一人ひとりの状態やその日の天候や環境等により、水分量の調整や栄養摂取に取り組んでいる。水分摂取はその都度個人記録に記載し、体重測定は月1回行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	下膳後、声掛けと誘導をし、利用者一人ひとりの習慣と力に応じた口腔ケア支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンに応じて、ポータブルトイレの使用、布パンツ、紙パンツ、尿取りパッド、紙オムツ等で支援し、日中と夜間帯、状態の変化等によっても、その人、そのときに適した形で支援している。日中、夜間共に、可能な限り、トイレで排泄できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維がより多く摂取できるよう、食材を工夫している。近所への散歩や、下階ホールでの屈伸運動、階段昇降練習などの個別支援をしている。また、主治医と相談したうえで、緩下剤投与の支援をしている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望を聞き、意思を確認後、入浴してもらっている。入浴を拒む利用者には、意欲を引き出せるような言葉掛けや説明をし、対応す職員を変えたり、入浴時間をずらす等の工夫をしている。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や休息は、利用者一人ひとりの状態を把握しながら、ベッドが苦手な場合はベッドを除去したり、ベッドの位置を移動させたり、居室の温度調節等に配慮して、安眠できる環境づくりを心掛けている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルの手順に従い服薬支援を行っている。看護職員を中心に、服薬管理や薬の効用、副作用に関する勉強会を行っている。利用者の状態を観察し、変化があればその都度主治医の指示を仰いでいる。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが趣味、趣向を楽しむことができ、得意なことや生活習慣を活かした家事やレクリエーションをすることで、楽しさや満足感を味わうことができるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所周辺を散歩したり、量販店への買い物や、自宅や馴染みのある場所へのドライブ、地域のイベントへの外出、お花見等、個別の外出支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的に、地元のパン屋の移動販売を利用し、それぞれ好みのパンを購入している。必要な場合には小遣いを利用者自身が管理し、週刊誌や菓子等の買い物ができるよう支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの要望があれば家族へ電話ができるよう支援し、家族からの電話は常時取り次ぐようにしている。家族から母の日のプレゼントが届いた際には、利用者自身でお礼の電話をしてもらっている。家族等への手紙や、年賀状が送れるよう支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がちぎり絵や折り紙などでリビングの壁飾りやカレンダーを作り、季節毎に貼り替えることで、季節感を感じられるよう工夫している。利用者一人ひとりに合った温度、湿度が保てるよう努めている。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空スペースにソファや畳の間を設置し、自由に過ごせるようにしている。食事の時間やティータイムを楽しく過ごしてもらえるよう、利用者個々の居場所に配慮する取り組みを行っている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前から使用している使い慣れた家具や寝具、テレビ等を居室で使用している。また、居室には、家族との写真や、本人が作った作品等を飾り、穏やかに過ごせるよう工夫がされている。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の出入口の戸口の色を違えたり、目印をつけることで、居室を間違わないように工夫している。排泄後の手洗いや、食後の口腔ケアは、習慣が身に付くよう、声掛け支援をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない